

もっと知ろう “陶”

9、こま犬

平成 30 年は戌年です。陶で戌（犬）といえば、当然「世界一の美濃焼こま犬」です。

陶の小学生に陶の自慢を尋ねると、多くの子供が「こま犬」と答えます。テレビ・雑誌などにも何回も取り上げられた陶の大事な観光資源です。そこで、こま犬について少しばかり勉強してみましよう。

瑞浪市郷土史シリーズを著されている渡辺俊典さんによると、狛犬は中国で兕（じ）という獣にあたり、前肢を直立し後肢を曲げて正面を直視する姿が犬に似ていることから高麗犬（こまいぬ）、狛犬と呼ぶようになったそうです。一方、前肢を曲げて玉をくわえたり踏んだりしているのは唐獅子で、狛犬より獅子が誇張された像だそうです。

この説では、大川八王子神社前の美濃焼像は狛犬ですが、本殿前の石像は唐獅子像ということになります。但し、両方とも狛犬（古代式と現代式）でも間違いではないそうです。

世界一の美濃焼こま犬は、右が口を開いた阿（あ）形像で、左が口を閉じている吽（うん）形像です。雌雄というわけではありません。阿吽というのは、阿（あ）は口を開いて発音し、吽（うん）は口を閉じて発音することから吐く息と吸う息を表し、そこから二人以上が一つの事をするときの微妙なタイミングや気持ちの一致を**阿吽の呼吸**と表現するようになりました。また、仏教ではサンスクリット語の五十音順では阿（あ）が始まりで、吽（ん）が終わりだから（日本語と同じ）即ち人生の初めから終わりまでが阿吽です。

大川のこま犬は、国道 419 号の起点と終点（阿と吽）である瑞浪市と高浜市が、平成元年姉妹都市の提携を結んだ記念として、大川窯 4 代目羽柴与左衛門景度の美濃焼こま犬をモデルに 15 t の陶土を使用し 12 日間かけて焼成しました。

お宮参りの際には、人生の終幕まで阿吽の呼吸で仲良く過ごせるよう、そしてお金にも困（こま）らないよう、入口の狛犬にもお参りしたいと思います。

